



幸手中学校 スクールグランドデザイン

幸手市学校教育グランドデザイン【幸手市の学校像】
「希望と力と誇り」のあふれる魅力ある楽校の創造

校是「全力は美なり」

学校の教育目標

- ◇ 学び続ける生徒 <知力>
- ◇ 心豊かな生徒 <徳力>
- ◇ 活力のある生徒 <体力>



■幸手中学校で特につけさせたい力

- ・問題から課題を見だし、その解決に向かって努力する力
- ・お互いのよさを生かし、集団活動を通して人間として共に生きる力
- ・ICTを活用する力や学習内容を理解する力や整理、暗記して活用できる力

豊かな学びで未来を拓く埼玉教育

— 第4期埼玉県教育振興基本計画 —

- 1 確かな学力の育成
- 2 豊かな心の育成
- 3 健やかな体の育成
- 4 自立する力の育成
- 5 多様なニーズに対応した教育の推進
- 6 質の高い学校教育のための環境の充実
- 7 家庭・地域の教育力の向上
- 8 生涯にわたる学びの推進
- 9 文化芸術の振興
- 10 スポーツの推進

子どもの豊かな心とたくましく生きる力を育む教育の充実

— 幸手市教育大綱（第3次） —

- I 学校教育内容の充実
- II 学校教育環境の整備
- III 青少年の健全な育成
- IV 社会教育の充実
- V 歴史・伝統文化の継承と活用

幸手市教育行政重点施策

基本目標1 学校教育内容の充実と教育環境の整備
 ◇確かな学力の育成 ◇豊かな心と健やかな体の育成 ◇社会において自立的に生きていく力の育成 ◇人権教育の推進 ◇生徒指導・教育相談体制の充実
 ◇家庭・地域との連携・協働による学校教育の推進 ◇学校の働き方改革と資質向上及び学校評価等を生かした学校経営の改善 ◇学校施設及び教育環境の整備推進 ◇安心・安全な学校給食の運営と食育の推進

幸手市リーディングDXスクール事業の推進

幸手市の学校像：「希望と力と誇り」あふれる魅力ある楽校の創造

自学自習を目指した
質の高い教育活動

人権意識を高め、自他ともに
尊重される環境づくり

基本的な生活習慣の確立と
健康増進のための取組

授業の充実

☆学力は誰が「学力向上」☆

- ①自ら学び自ら考え表現するなどの主体的で対話的な深い学びの推進
- ②基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ教育活動の充実
- ③自学自習できる学習態度を身に付けるとともに家庭学習と結びつけた指導

生徒指導・教育相談の充実

☆生徒指導と教育相談は車の両輪☆

- ①生活に目標を持たせ、集団の一員としての自覚を深め、よりよく生きようとする生徒の自己指導能力の育成
- ②生徒の悩みに共感し、生き方を学ぶ指導を通して、生徒の生き方支援の積極的な推進

特別活動の充実

☆学校を彩る諸活動☆

- ①生徒会活動や学年行事、学級活動を通して、所属意識や連帯感を高め、成就感や充実感が味わえるような生徒が主体的に活動できる機会や場の設定・工夫
- ②希望と自信を持って積極的に学校生活に取り組めるようにするための計画的、継続的な指導・助言

道徳教育の充実

☆自己肯定感の高揚☆

- ①生命に対する畏敬の念に根ざした人間尊重の精神を培うために、全教育活動を通じた計画的な道徳性を育む教育実践
- ②「考え、議論する」道徳科への転換に向けて、話し合いを通して生徒の道徳性を養う授業の充実
- ③人権教育、情報モラル教育、食育、特支教育との関連を図り、道徳の内容を意識した教育活動の展開

特別支援教育の充実

☆生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組支援☆

- ①基礎・基本の重点的指導
- ②実態に応じた交流学习
- ③生活経験の拡大促進
- ④自己決定・判断の場の設定
- ⑤生活場面からの教科指導促進
- ⑥ニーズに応じた指導の充実
- ⑦保護者との連携による見取り

体育・健康教育の充実

☆体力向上・健康保持増進☆

- ①体育科の授業や学校行事、運動部活動等を通して、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる力の育成
- ②保健指導、安全指導、学校給食指導など、日常的な指導を通じての健康な生活に関する態度の習得

進路指導・キャリア教育の充実

☆中1ギャップの解消☆

- ①生き方学習を中心とした学校づくりを進め、全教育活動を通じたキャリア教育の展開
- ②進路相談の充実と生徒が主体的に進路を選択できるための支援の充実
- ③家庭や関係諸機関との連携を深め、9年間を見据えた生き方学習の推進

教育活動の改善を進め、学びの質を高める学年・学級経営

- ①「何ができるようになるか」（目指す資質・能力の明確化と課題を意識した学び）・学習活動の意味を理解し、主体的で対話的な学びをサポートする。
- ②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と教科等間の系統性を踏まえた教育課程の編成）・思考を揺さぶり、多面的・多角的に物事を深く考えられる学びへと誘う指導や支援。
- ③「どのように学ぶか」（指導計画の見直しと実施、学習・指導の改善・充実）・基礎基本の確実な繰り返し学習と対話を重視することで多面的・多角的な深い学びの実現を目指す。
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）・生徒の実態を的確に捉え、安心して自分のペースで学ぶことを全体で共有する。
- ⑤「何が身に付いたか」（学習評価の日常的な点検・充実）・オープンエンド型の授業スタイルで、さらなる課題を見いだし学びの連続性を意識する。
- ⑥「実施するために何が必要か」（学習環境の整備・充実）・時代のニーズに対応した教育環境、教育技術を整えていく。
- ⑦ ・全教科で自学自習ができる学び姿勢や学習意欲の向上など主体的・自発的な学習を進める。・総合的な学習の時間を活用し、課題解決型学習（PBL）に取り組む。・答えのない課題に向き合うことで思考力を高め、生活に役立つ応用力を養う。・情報リテラシーや情報モラルを重視するとともに相手に自分の意見をわかりやすく伝える表現力を培う。

地域は子どもが育つキャンパス

家庭・地域との連携

9年間で子どもを育てる

小中連携の推進